

出会い・結婚支援から始めるサポート！

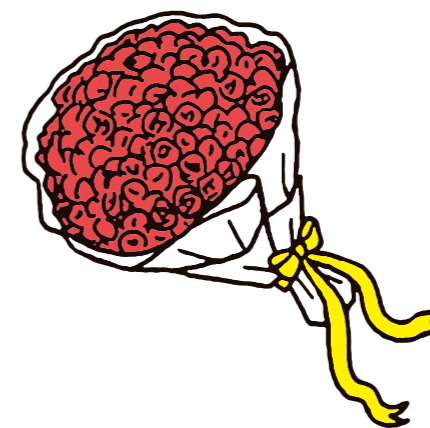
# こいのわ サポート BOOK



広島県 健康福祉局 子育て・少子化対策課  
 〒730-8511 広島市中区基町10-52  
 Tel:082-513-3171

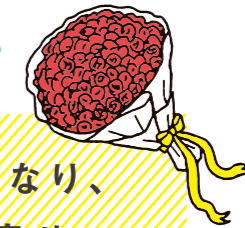


<https://www.hirosapo.jp/>  
ひろサポ



1. はじめに	3
2. データで見る	
1) 少子化、未婚化・晩婚化の状況	4
2) 結婚に対する意識	5
3) 不妊治療を取り巻く状況	6
4) 夫婦の働き方や意識の変化	7
5) 従業員のライフを応援～ワーク・ライフ・バランスの推進	8・9
3. 企業の事例	
1) 広島経済同友会	10
2) 連合広島(広島地域協議会)	11
3) B-with	12
4) 株式会社サタケ	13
5) 呉中通病院	14
6) 株式会社フォノグラム	15
4. 将来世代応援企業	16・17
5. 地域の応援団	18・19
6. 広報協力企業	20
7. みんなでおせっかい「こいのわ」プロジェクト	
広島県知事 湯崎英彦	21
8. 企業の皆さまへ	22・23

## 企業が「こいのわ」をサポートすること。



一人ひとりの幸せが“輪”となり、  
企業の幸せ、そして社会の幸せへ。

ライフスタイルが多様化する中で、  
若い世代の結婚・子育てに対する意識や  
働き方に対する考え方が変化しています。

希望するライフデザインを描きながら、自分らしい人生を選択し、  
充実した生活を送ることは、企業全体にも好影響が生じると言われています。

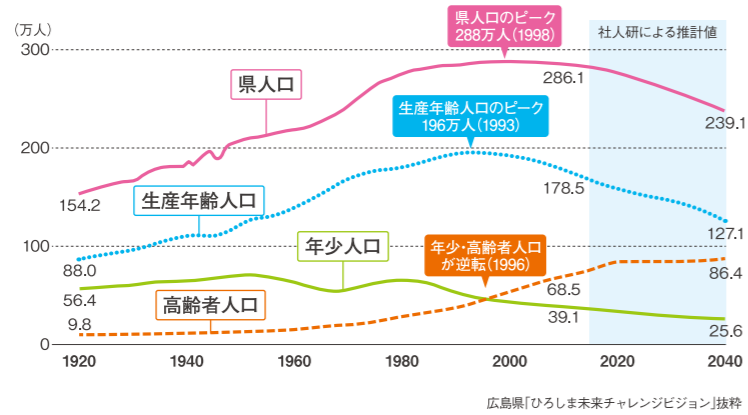
従業員の「ライフ」を応援する取組みは、子育てや両立支援など多岐に渡りますが、  
中でも最初のステップとなるのが、出会い・結婚のサポートではないでしょうか。

広島県が進める「こいのわプロジェクト」は、  
結婚を希望する若い世代へ、出会いのきっかけを提供するなど  
幸せづくりのお手伝いをしています。

今、この取組みが多くの企業へ少しずつ広がりを見せています。  
一人ひとりの幸せが“輪”となり、  
企業の幸せへ、そして社会の幸せとなるように——  
私たちはみんなが“幸せの輪”でつながることを願っています。

### 少子化、未婚化・晩婚化の状況

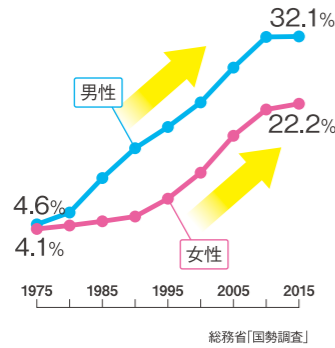
#### 広島県の年齢3区分別人口の推移



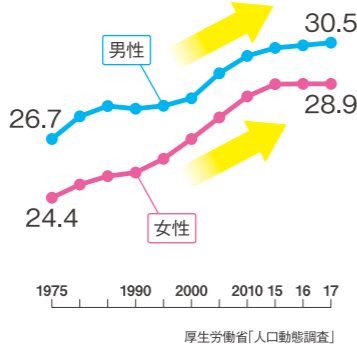
- 2010年から2040年にかけて、総人口は47万人、生産人口は51万人減少。
- 市場の減少や働き手の減少が想定され、社会全体での対策が急務。

#### 未婚化、晩婚化の状況

未婚率(35~39歳)の推移

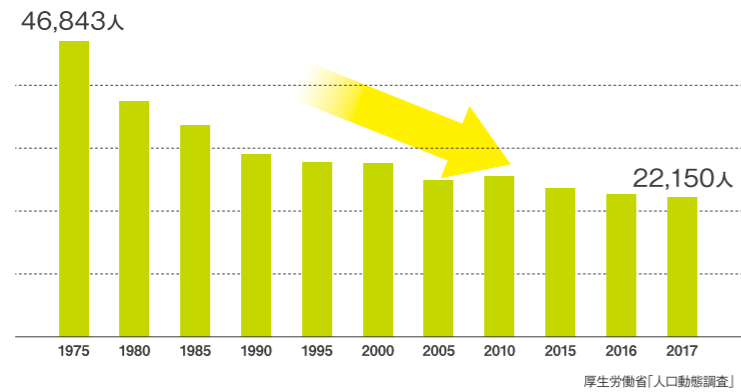


平均初婚年齢の推移



- 35~39歳の男性の3人に1人、女性の4人に1人が未婚。
- 平均初婚年齢も上昇傾向にあり、晩婚化が進行。

#### 広島県の出生数の推移

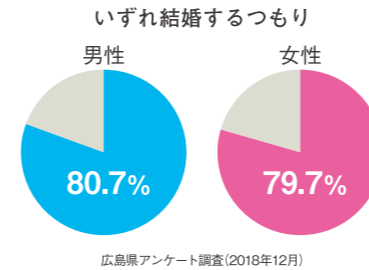


- 出生数は減少傾向で、40年前の約半数となっている。

将来の社会を担う世代の減少

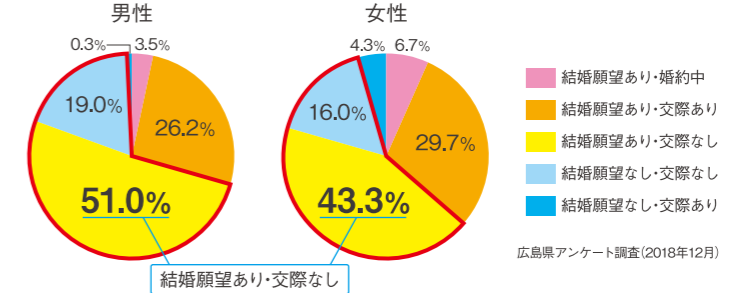
### 結婚に対する意識

#### 結婚に対する希望



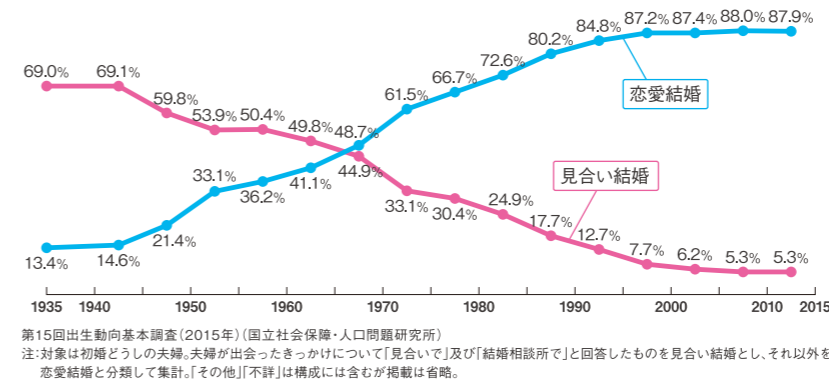
- 独身男女の約8割が結婚したいと考えている。

#### 交際の状況



- 独身男性の70.0%、女性の59.3%が交際相手がいない。
- 結婚願望ありで交際なしの人が、男性で51.0%、女性で43.3%。

#### 結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚の構成推移



- 見合い結婚の割合は年々減少し、全体の5.3%に。

#### 独身でいる理由

結婚したいが交際していない理由(25-39歳)複数回答

	男性	女性
適切な相手にめぐり会えない	1 40.6%	1 61.0%
異性とうまく付き合えない	2 21.8%	3 22.6%
もう少し経済的にやっていると自信がついてから結婚したい	3 20.6%	10.1%
自由や気楽さを失いたくない	18.2%	2 24.5%

男女とも適当な相手にめぐり会えないが第1位

#### 夫婦の出会いのきっかけ

1 職場や仕事で	33.2%
2 友人や兄弟姉妹を通して	28.6%
3 学校で	11.2%

夫婦の3組に1組

広島県の取組み

#### 職場や仕事での出会いを応援!

- サポート企業の登録(従業員への出会いイベントの情報提供、独自の支援制度など)
- 地域で活動する団体によるイベントや官民協働による「こいのわカフェ」の開催
- 企業や経済団体と連携した出会いイベントの開催

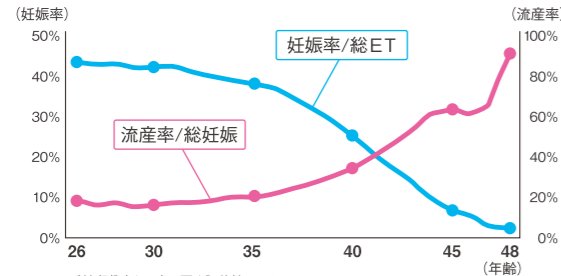


詳しくは⇒P22

### 不妊治療を取り巻く状況

#### 女性の年齢による妊娠率と流産率の変化

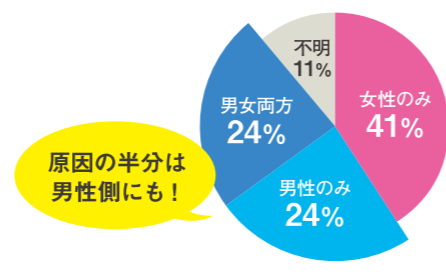
○一般的に女性は年齢が高くなるとともに妊娠しにくくなり、特に35歳以降からは妊娠率が大きく低下。



※ETは、受精卵(胚)を子宮に戻す胚移植のこと  
出典:日本産婦人科学会 ARTデータ集2015 <https://plaza.umin.ac.jp/~jsog-art/data.htm>

#### 不妊の原因

○不妊は女性だけの問題ではなく、不妊の原因の半数が男性側にもあるというデータも存在。



WHOによる不妊症7,273カップルの調査

#### 不妊治療の状況

○晩婚化や晩産化を背景に、不妊治療を受ける夫婦や、不妊治療によって生まれる子供は増加傾向。

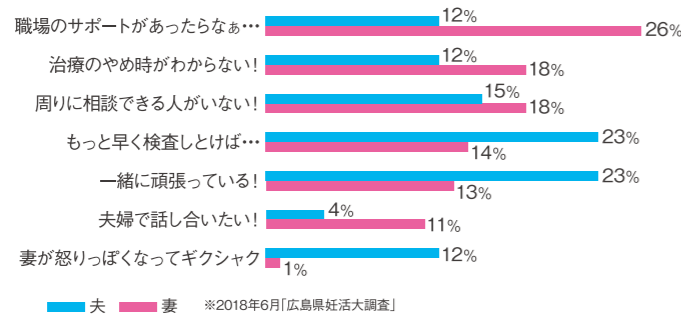
**5.5組に1組**  
現在、日本では不妊の検査や治療を受けたことがある(または、治療中の)夫婦は全体の**18.2%**  
(国立社会保障・人口問題研究所「2015年社会保障・人口問題基本調査」)

**約20人に1人**  
2015年に特定不妊治療(体外受精、顕微授精等)によって誕生した出生児は全体の**5.1%**  
(日本産婦人科学会「ART データブック(2015年)」, 厚生労働省「2015年人口動態統計の年間推計」)

治療のステップと自己負担の目安(左から右へ移行)

項目	不妊検査	一般不妊治療				特定不妊治療	
		タイミング法	薬物療法	人工授精	男性不妊治療	対外受精	顕微授精
自己負担目安	1万円~10万円	5千円~1万円	5千円~1万円	1回当たり1万円~3万円	10万円~40万円	1回当たり30万円~50万円	1回当たり40万円~60万円

#### 不妊検査・治療を受けた夫婦の気持ち 共感するフレーズの割合(夫婦ともに受診)



- 妻は職場のサポートを望む声が多い。検査・治療は身体の周期の影響を受けるため、急遽仕事を休む必要もあり、職場の理解・協力を得られやすい環境が求められている。
- 夫の多くは、早期に受診すべきだったと感じている。
- 夫婦ともに悩みを共有できるパートナーや理解者を望む声が多い。

#### 広島県の取組み

不妊に対する経済的な支援や、妊娠・出産・不妊に関する相談対応を行っています。

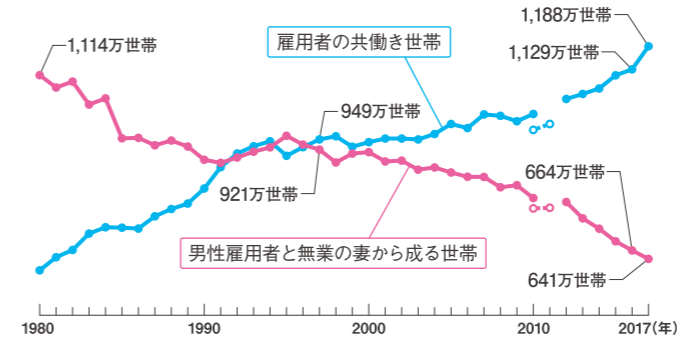
- 不妊検査・一般不妊治療に対する助成
- 特定不妊治療に対する助成
- 広島県不妊専門相談センターの運営、妊活セミナーの開催 など

職場など周囲の理解促進に向けた普及啓発に取り組みます。

詳しくは⇒P23

### 夫婦の働き方や意識の変化

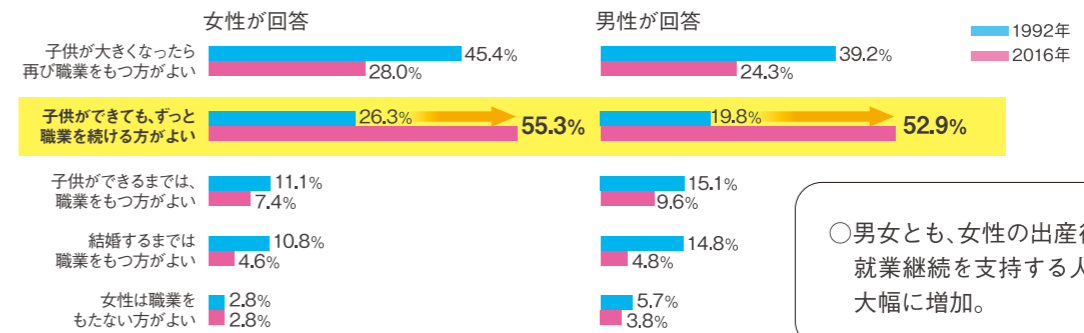
#### 共働き等世帯数の推移



内閣府「2018年版男女共同参画白書」  
(備考):1980年から2001年までは総務省「労働力調査特別調査」、2002年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」により作成。「労働力調査(詳細集計)」と「労働力調査(特別調査)」とは調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農業雇用者で、妻が非労働力人口及び完全失業者の世帯。「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農業雇用者(非正規の職員・従業員を含む)の世帯。2010年及び2011年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

○国内では、「共働き」世帯が主流に。男女ともに仕事と家庭の両立が重要に。

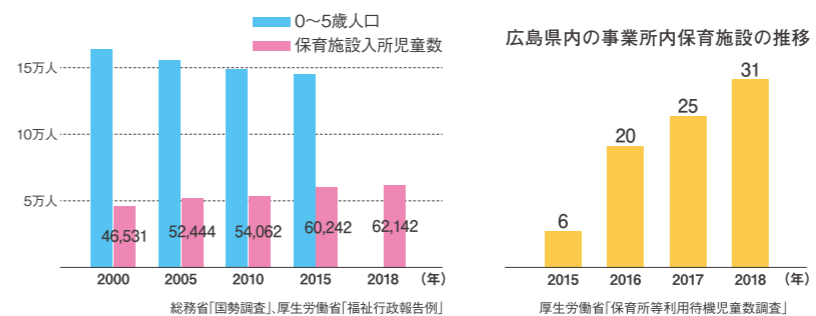
#### 女性が職業をもつことに対する意識



○男女とも、女性の出産後の就業継続を支持する人が大幅に増加。

内閣府「2017年版男女共同参画白書 特集編」  
内閣府「男女平等に関する世論調査」(1992年)、「男女共同参画社会に関する世論調査」(2016年)より作成。2014年以前の調査は20歳以上が対象。2016年の調査は18歳以上が対象

#### 多様な保育ニーズの増加



○子供の人口は大きく減少している一方で、保育施設への入所児童数は増加している。また、事業所内に設置する保育施設が増加傾向。

近年では内閣府による企業主導型保育施設も急増中(2018年3月現在で県内58施設)

#### 広島県の取組み

いつでも安心して子供を預けられる保育環境を確保するため、待機児童の解消や多様な保育サービスの確保などに取り組んでいます。

- 保育士人材の確保 ○企業主導型保育事業等による多様な保育サービスの確保 など

安心して子育てできる環境づくりを目指して、様々な取り組みを行っています。

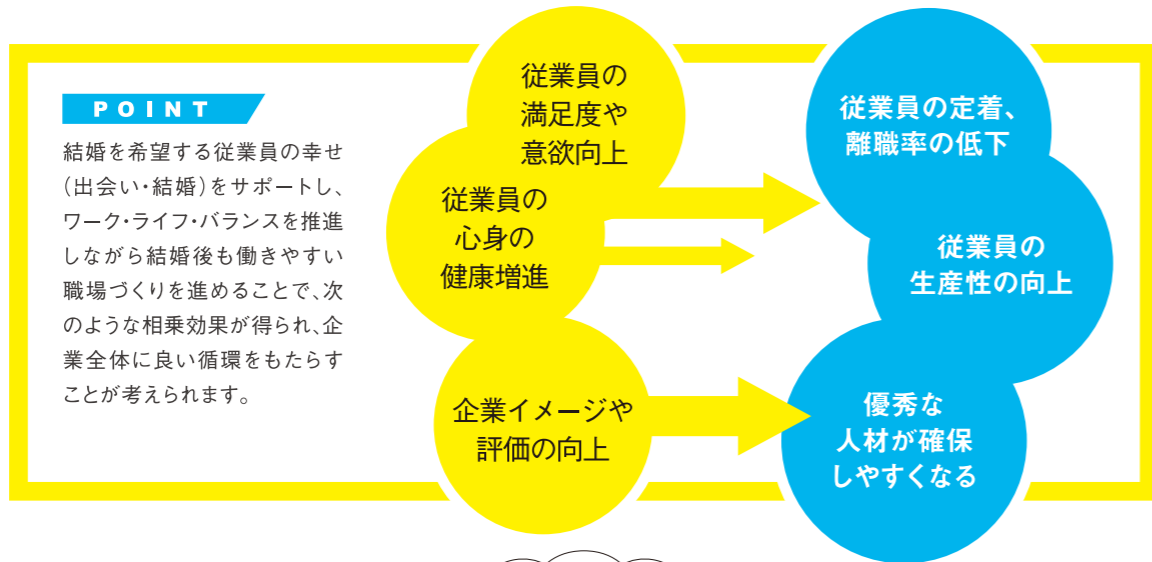
- 「ひろしま版ネウボラ」構築事業 ○「子育て応援イクちゃんサービス」 ○子育てポータル「イクちゃんネット」など

詳しくは⇒P23



### 従業員のライフを応援 ～ワーク・ライフ・バランスの推進

「従業員の結婚応援って会社がすること?」「会社のためになるの?」と思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、「従業員一人ひとりの幸福度が仕事の成果に関係する」といった研究もあります。結婚だけでなく、妊娠・出産や子育て、自分の趣味、働き方などライフプランにおけるさまざまな希望が叶い、従業員が充実した生活を送りながらいきいきと働くことが、企業の幸せにもつながる可能性があります。

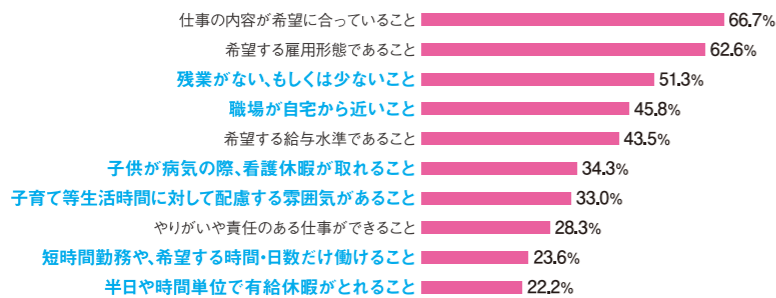
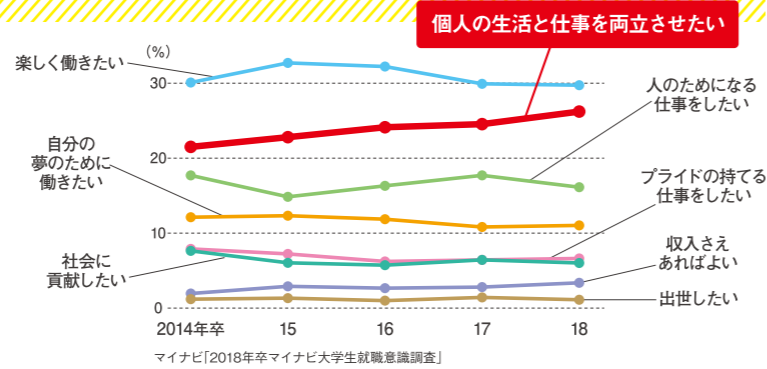


例えばこんなデータもあります

### 働く人のニーズの変化

#### 新卒者の就職観の推移

○個人の生活と仕事の両立など「働き方重視」で企業を選択する若者が増加。



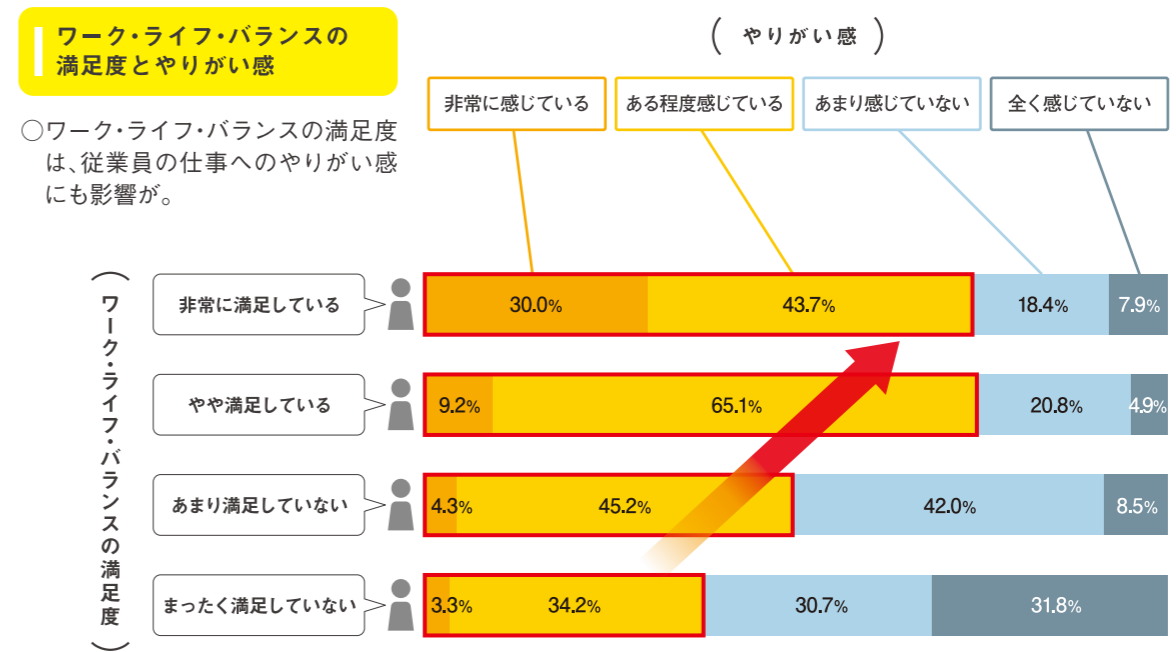
#### 女性が再就職を決める際に重視したこと(正社員)

○育児等で離職後に再就職を希望する女性は、「残業の少なさや多様な働き方、職場の近接性」などを重視。

厚生労働省委託調査(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)「出産・育児を機に離職した女性の再就職等に係る調査研究事業」労働者アンケート調査結果(2015年3月)をもとに作成

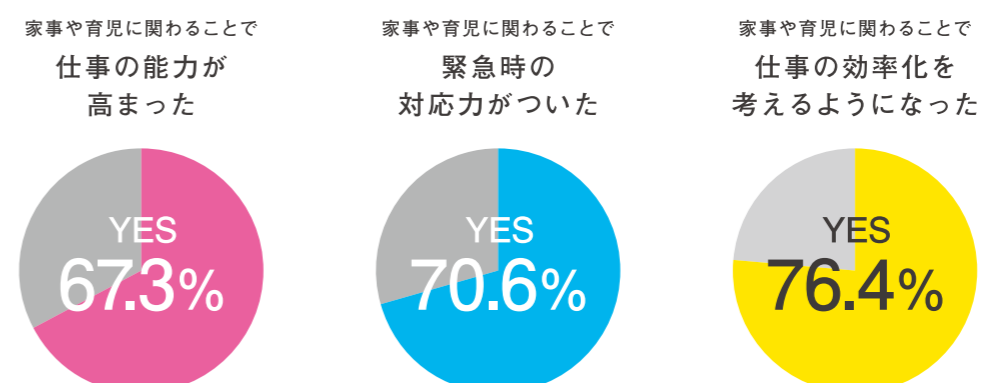
### 従業員のライフを応援 ～ワーク・ライフ・バランスの推進

### ワーク・ライフ・バランスなど「従業員の生活を応援」することの効果



武石恵美子(2009)「働き方とWLBに関する社員の意識:最新調査から」『東京大学ワーク・ライフ・バランス推進研究プロジェクト キックオフシンポジウム資料』

#### その他こんなデータも



九州・山口ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン調べ

広島にも従業員のライフを応援して、企業全体に良い循環が生まれている企業・団体はたくさんあります!!  
次ページからの先進事例集をご覧ください!

広島経済同友会

COMPANY PROFILE



業種	経済団体
従業員数	—
勤務体系	各企業による
男女比	男性が多い <span style="color: red;">unidentified</span> 女性が多い
年齢層	低め <span style="color: red;">unidentified</span> 高め
未婚割合	未婚 <span style="color: red;">unidentified</span> 既婚

異業種交流を官民が一体となって進めていくなど、取組のさらなる深化を

- Q** 応援のきっかけ、取り組んだ理由は？

人口減少の地域経済への影響をみると、地方によっては人口減少による社会経済構造変化が進み、消費や生産といった経済活動の動向に地域間で差が生じ、特に東京圏とその他の地域との間には大きな差が生じているデータもあります。こうした現状を踏まえて、広島経済同友会として、広島県の人口減少、少子高齢化を抑制し、地域の活力を持続的なものにしていくため産・官・学が連携して、何かできないかという中で、婚活について先進的に取り組まれていた広島県に協力をお願いし、異業種交流会として、2年間で3回開催してきました。
- Q** どんな取り組みを行いましたか？

まずは広島経済同友会で異業種交流会を2回開催。若手社員のスキルアップとなるよう、コミュニケーションセミナーを取り入れた会もやりましたし、趣向を変えて楽しく交流することに特化した会もやりましたね。3回目は、さらに一歩前に進めて、広島経済同友会と県とで双方で参加者を募集して、葡萄狩りやバーベキューなどの共体験を通じて交流してもらえる場を設けました。こうした取り組みを官民が一体となって進めていき、取組みをさらに深化させていくことが、各主体単独での活動よりも、さらに大きな効果を上げることにつながると考えています。
- Q** 取り組みの影響や効果はありますか？

すぐに効果が現れにくい領域でもあるので、長期的な視野に立った、息の長い取組みが肝要だと思います。県の調べでは、多くの若い人がいつかは結婚したいと考えているとのことですが、何をどうすれば未婚化、晩婚化を防ぐことができると簡単に言えない難しい問題です。行政には環境面の整備を進めていただきつつ、私たち企業も、さまざまな支援等に取り組むことで、社員の誰もがイキイキと働き幸せに暮らすことができる社会の醸成につながればと願っています。広島経済同友会は企業の代表者などの集まりです。社員の幸せを願わない経営者はいないでしょう。

**ポイント** 広島経済同友会の一番の特色は、企業経営者が一企業や特定業種の利害を越えて自由な活動を行うところにあります。会員ひとりひとりが、より広い視野と自由経済社会の担い手であるという自覚のもとに、日々変化する経済社会の諸問題について議論を深め、社会に訴えていくことが重要という考えでした。

連合広島(広島地域協議会)

COMPANY PROFILE



業種	労働組合連合体
従業員数	75,000名(広島地域協議会)
勤務体系	組合員所属の企業による
男女比	男性が多い <span style="color: red;">unidentified</span> 女性が多い
年齢層	低め <span style="color: red;">unidentified</span> 高め
未婚割合	未婚 <span style="color: red;">unidentified</span> 既婚

連合広島 広島地域協議会 議長 滋野和義さん

異業種交流会の運営を機に若手が積極的に発言するように

- Q** 応援のきっかけ、取り組んだ理由は？

連合広島では以前から異業種交流会を開催していました。それは若い組合員が集まって勉強会を開き、親交を深めるといったもの。それが近年、意識調査をしたところ「きっかけがあれば結婚したい」「自分から出会いを作れない」「結婚する意識がまったくない人は少ない」という結果が出て。組合員の生活をサポートするのがわれわれの仕事なので、ニーズがあるなら応えたいと思い昨年からは広島県の「こいのわプロジェクト」とタイアップ。異業種交流会の婚活要素を強化することにしました。会の進行や雰囲気作りは「こいのわ」のノウハウが非常に役立ちましたね。
- Q** どんな取り組みを行いましたか？

これまで会の中身は参加者の自主性に任せてきましたが、今回はボランティアの方々のフォローなど積極的なサポートを心掛けました。また、これまではあくまで勉強会が中心でアフターパーティは余興という感じでしたが、今回は「結婚を前提とした出会いの場」ということをはっきり打ち出しました。それによって真剣な気持ちで出席してくれる人が増え、成立カップルも例年の3~4倍に増加。出会いを作るという意味では大きな成果が出ました。会の運営を担う連合広島の若手グループ「ユースター委員会」も口をそろえて「来年もやりたい!」と言っています。
- Q** 取り組みの影響や効果はありますか？

カップルになった方が実際に結婚に至るかどうかはこれからですが、ユースター委員会のメンバーの成長は感じます。プロジェクトを企画立案する力。みんなで知恵を出し合い、ひとつのものを作り上げていく力。特に交流会を経た後では、自分の意見を積極的に発言するようになりました。今回の成功体験で自信を付けたところもあるし、同世代の仲間のサポートをすることで積極性を身に着けたところもあるのでしよう。



**ポイント** 「こいのわプロジェクト」とのコラボでリニューアルした異業種交流会。やってみて気付いたのは、参加者の遠慮ぎみなムードをいかに早く溶かすかが重要であること。いわゆる「アイスブレイク(緊張を解きほぐす手法)」を手厚くやらないと早々に脱落してしまう人もいるし、打ち解ける時間も足りなくなってしまうということでした。

B-with

COMPANY PROFILE



会長 田村晃宏さん

業種	任意団体
会員数	5,156名
勤務体系	フルタイム・土日祝休
男女比	男性が多い
年齢層	低め
未婚割合	未婚

人との交流にフォーカスした婚活イベントが街の魅力アップや異業種交流に発展

Q 応援のきっかけ、取り組んだ理由は？

福山市は製造業の比率が高く、ものづくり企業の社員同士で「社内に男性社員が多く、出会いが少ない」とぼやくことが多くて。だったら、企業単位で参加できる婚活イベントを開催してみよう、と始めたのがきっかけです。婚活イベントとはいえ、目的は婚活よりも人との交流。異性、同性関係なく交流し、異業種の人と出会い、自分の世界を広げるきっかけにしてほしい。イベントでの出会いがやがて結婚、出産、学業、就職、老後へとつながり、福山の経済活動や産業の促進となるように、「地域に根付く家庭を築き、幸せになっていこう」をテーマに活動しています。

Q どんな取り組みを行いましたか？

参加者のニーズに合わせて、「参加したくなる」仕組みづくりを工夫してきました。入会は企業単位なので、一人ではイベントに参加しづらくても同僚と一緒に参加してみようという気持ちになります。交流する相手の素性も分かるので、安心感もあります。男女のマッチングや成婚者数の把握はあえてしません。何回でも気楽に参加できる出会いの場の提供を大事にしているからです。会員以外の企業の「お試し参加」や会員の友人も参加可能とすることで、新しい加盟企業や会員が増え、イベントのリピート率も上がっています。

Q 取り組みの影響や効果はありますか？

運営に携わるスタッフも独身者限定で、自分ごととして取り組んでいます。参加者も運営側も主体的にイベントに関わることで連帯感が生まれ、仲間を作る大切さを実感。それが喜びや楽しさとなり、婚活イベントに留まらず、地元との学生と一緒に清掃ボランティアや地域イベントのお手伝いなど、街づくりや地域貢献へと活動の幅も広がりました。家から一歩も出さずSNSで人とつながり、クリックひとつで物が買える時代だからこそ、イベントを通じて人と出会い、地元を知り、企業と関わることが、地元への愛着と定着を深めると考え、取り組んでいます。

ポイント

2016年4月の発足時は5社でスタートし、2019年現在で19の企業・団体がB-withに加盟。会員約5,000人のうち未婚者は約2,000人です。婚活イベントは11回を数え、20~120人を動員しています。学生を巻き込んだボランティア活動は50回を超え、異業種交流、街の魅力アップといった「人×街×企業」の有機的なつながりを生んでいます。

株式会社サタケ

COMPANY PROFILE



取締役人事部長 木谷博郁さん

業種	食品産業総合機械、プラント設備、食品の製造販売
従業員数	1,000名
勤務体系	フルタイム・土日祝休
男女比	男性が多い
年齢層	unidentified
未婚割合	unidentified

せっかく育った女性社員が退社 それを防ぐために社内結婚を推奨

Q 応援のきっかけ、取り組んだ理由は？

ある女性社員が東京在住の男性と結婚するため退社したいと言ってきたんです。それを代表の佐竹利子に伝えたとこ「せっかく育った優秀な社員が辞めてしまうのは残念で仕方がない。まるでとんびに油揚げをさらわれるようだ」と(笑)。そこで代表が言い出したのが「社内結婚すれば女性社員も残ってくれるんじゃない?」。わが社の育休取得率は100%に近いので、女性社員の離職の理由は遠距離恋愛からの寿退社がほとんどなんです。そこで2010年に策定した社内の次世代育成支援対策行動計画に「社内結婚を推奨」という項目を盛り込むことにしました。

Q どんな取り組みを行いましたか？

具体的には社内結婚を決めたカップルに結婚祝いの品を贈呈。結婚後に2人とも5年間継続勤務した場合はサタケ商品購入券を支給し、社内保育室利用料の割引も行います。実を言うと過去2回、社内で出会いイベントを企画したこともあるんです。ただ2回とも女性の応募者が少なく、失敗に終わってしまって……。それ以降は結婚に至るお手伝いはしないけど、結婚を決めた人にプレゼントを贈るというやり方をとっています。われわれの基本経営方針は「会社を取り巻くすべての人を幸せにする」。社員が喜ぶだろうと思うことは何でもやってみる社風なんです。

Q 取り組みの影響や効果はありますか？

次世代育成支援計画に「社内結婚の推奨」と掲載してから9年間で15組の社内結婚がありました。もちろんこの施策がカップル誕生にどこまで関与しているかは不明ですが、それでも社内的にはおおむね好評だと感じています。というのも、こういった施策やわれわれの子育て支援策がマスコミで紹介されることにより、近所の井戸端会議などで「サタケさんはいいわね」と言われる機会が増えたというのです。自分の会社がほめられて嬉しくない社員はいませんか? 社員が会社に愛着を感じて、結果的に仕事に励んでくれるのであればそれが一番だと思います。

ポイント

これまで遠距離恋愛のカップルが結婚する場合、女性が会社を辞めて男性の勤務地に赴くことが普通でした。しかし最近では広島在住の彼女と結婚するため、県外から男性が広島にやって来てサタケに途中入社するという形も増えてきたといいます。「時代が変わって、油揚げがとんびをさらってくるようになったんですね(笑)」と木谷さん。

呉中通病院

COMPANY PROFILE



医療法人社団中川会 法人本部副本部長 中本祥利さん

業種	医療福祉
従業員数	278名
勤務体系	シフト制(医師・看護師)、フルタイム・土日祝休(事務職)
男女比	男性が多い
年齢層	低め
未婚割合	未婚

“OMOTENASHI”のようにおせっかいの輪も広がってほしい

Q 応援のきっかけ、取り組んだ理由は？

呉中通病院は県が推奨する「こいのわサポート企業」に登録していますが、それとは別に私は個人としてボランティアをしたいと考えていたんです。定年後の人生を充実させるため何か地域に貢献したいと思って。そのときたまたま見つけたのが「こいのわカフェ」のボランティア。これは出会いのイベントで盛り上げ役や相談役を務めるというもの。自分も若い頃、お見合いパーティに行ったことがあるので参加者の気持ちかわかるし、以前は人材派遣会社にいたので人と人のマッチングでも役立てるかもしれない——そんな想いから登録してみることにしました。

Q どんな取り組みを行いましたか？

ボランティアの内容はいわば“おせっかい”を焼くこと。ポツンとしている参加者に話しかけたり、みんなが話しやすい雰囲気を作ったり。カップルになった方たちのフォローもします。イベントは最初もっとシーンとした様子かと思ってたけど、意外とみなさん楽しそうに話されるんです。ただ、いざ告白となるとなかなか踏み出せない。そんなときは「気に入った方はおられますか？」と声をかけたり、背中を押してあげるようにしています。もうボランティアをはじめた3年目ですが、真剣さの感じられる方、1人で来られている方は応援したくなりますね。

Q 取り組みの影響や効果はありますか？

カップル成立後も相談に乗っていた方が先日婚約されたんです。「こういう出会いを作っていただきありがとうございます」というメールをいただき、とても嬉しかったです。私自身ボランティアを通じて仲間もたくさんできました。「こいのわ」のキーワードは“おせっかい”ですが“OMOTENASHI”のようにポジティブな日本文化として“OSEKKAI”が広がっていけばいいと思います。



ポイント

中本さんは会社でもプライベートでも「こいのわ」に関わっているという珍しい例。ボランティアとしては基本的に月一度のペースでイベントに参加することを目指しているとか。今後はイベントで学んだノウハウを活かして、呉市内の医療機関合同で同業者パーティを企画するなど、医療関係者たちの出会いを応援したいと考えています。

株式会社フォノグラム

COMPANY PROFILE



取締役 山崎博行さん

業種	WEBコンサルティング
従業員数	27名
勤務体系	フルタイム・土日祝休
男女比	男性が多い
年齢層	低め
未婚割合	未婚

子連れ出社もOKにすることで結婚のイメージを身近なものに

Q 応援のきっかけ、取り組んだ理由は？

私たちはパソコンを使う仕事なので営業職以外、放っておけばあまりしゃべらなくて済むし、人と会わなくて済みます。だけどそれだと当然出会いなんて訪れない。うちは若い社員が多いので、結婚についてそこまでシリアスには心配していませんが、それでも「ずっと恋人がいない」と話すメンバーもいて、そういう人のことは気になります。なので同業者の飲み会やイベントなどの情報があれば積極的にまわりに伝えるようにしています。たとえ恋愛に結びつかなくても、社外の人に会って刺激を受けたり人脈を広げることは有益だと思いますからね。

Q どんな取り組みを行いましたか？

結婚応援というわけではないですが、社内イベントはたくさんあります。毎週水曜はみんなで一緒にごはんを食べるし、毎年「赤祭り」というイベントを開催し、連風呂を上げたりバーベキューをしたりします。それらはすべて社内コミュニケーションの活性化のため。会社だけ家族のように何でも話せるフラットな関係性を作りたいんです。あと、うちは会社に子供を連れてくることもOK。私の子供も社員と一緒にカーブを観に行ったりするし、既婚の社員の子供を未婚の社員が世話してくれることもしょっちゅう。オンとオフつながっている社風なんです。

Q 取り組みの影響や効果はありますか？

週1の食事会では普通に家族や育児の話をするので、未婚の人の相談に乗ることもあります。僕みたいにおせっかいする人もいるし(笑)。また、会社に子供を連れてきてもいいので急な用事や病気にも対応でき、育児をしながらでも働きやすい職場になっています。その結果、未婚の人たちにとっても自分が家庭を持つことだったり、結婚の先の生活がイメージできればいいですね。

ポイント

フォノグラムは入社後すぐニックネームが付けられ、社内ではその名で呼ばれる慣習があります。たとえば山崎さんは「BIFY」。それは役職や年齢に縛られないフラットなコミュニケーションのため。結婚支援についても「とにかく個で閉じないように」。結婚や恋愛の前に人付き合いがあり、その部分を活性化させていくという考えでした。



## 将来世代応援企業

### 生活協同組合ひろしま

平成27年  
表彰

『ファイナンシャル  
プランナーの会』が  
こいのわボランティア  
としても活動

常勤理事 高浦美穂さん

生協ひろしまには現在35人で結成した『ファイナンシャルプランナーの会』がありますが、そのうち約20人が「こいのわボランティア」の研修を受けて、県内各地で活動しています。はじめたきっかけは組合員からお金に関する相談を受けていると、「お金がないから結婚できない」という悩みと共に「出会いがない」という悩みが多く寄せられ、だったらお金に関してだけでなく出会いや婚活の面でもサポートしていこうと立ち上がったのです。ボランティアメンバーはすべて女性で、年齢も30～60代とさまざま。それぞれが出会いの会を企画したり、ファシリテーターとして会を運営したり“おせっかいおばさん”として活躍しています。もともと生協ひろしまは「子育てに優しい県にしたい」という想いから県の子育て施策に協力してきましたが、今後は出産以前の出会いの応援にも力を入れ、現在のボランティア活動を他の組合員にも広げていきたいと思っています。

### 株式会社広島銀行

平成28年  
表彰

結婚後の子育て支援の  
充実により  
「子育てにやさしい企業」  
として認定

人事総務部人事企画課 木下麻子さん

弊行では結婚後の子育て支援を精力的に行っています。県と共同で県庁内に認可事業所内保育園「イクちゃんち」を開設。従事者の子供を預かるとともに、一般にも開放することで地域の保育需要にも応えています。育児休業に入る際には頭取からの「復職を待っていますよ」という趣旨のメッセージと、育児休業中・復職時のサポートについて案内を手紙で送付。短時間勤務制度については小学校4年生の始期に達するまで利用可能です。これらの活動により厚生労働省の認定する「子育てにやさしい企業」に4回選ばれました。短時間勤務制度に関しては一人ひとりに適した働き方ができるよう、さらに進化させる予定です。また、2014年には従事者が仕事とプライベートを両立するために利用できる全制度を記した「ワーク・ライフ・バランスガイドブック」を作りました。現在はそれを行内ネットワークで掲示。結婚したら何をすればいいのか、子供が生まれたらどんな支援があるのか、すぐに検索できる環境を整えています。

### 株式会社フレスタ

平成29年  
表彰

結婚という  
人生経験を積むことで  
社会人としての  
幅が広がるのでは

管理本部人事グループ 渡辺裕治さん

弊社では2年前「こいのわサポート企業」への登録を機に、社員の出会いや結婚を応援する施策を積極的にはじめました。たとえば年に1回、独身社員から男性5人女性5人を募ってカーブ観戦に招待。地域で開催されている食べ歩き婚活イベントに参加した社員にはチケット代の半額を支給。半年前には社内結婚をした場合、結婚式費用として10万円を提供することに決めました。結婚するかしないかは個人が選ぶことなので会社として強制はできませんが、社会は独身者だけで成り立っているわけではありません。世帯を持っている人はどんな商品をほしがるのか、子供を持つ親はどんなサービスを求めているのか、結婚をきっかけにそういうことを学んでくれれば社会人としての幅も広がります。人生経験を積むことでお客様に提供できるサービスの質も向上すると思うのです。なので今後も結婚を希望する社員には、会社としてさまざまな支援をしていくつもりです。

### 広島電鉄株式会社

平成30年  
表彰

契約社員を  
正社員化したことで  
結婚に踏み切れない  
将来不安を解消

人財管理本部人事部労務課 岡本健治さん

弊社の施策で結婚応援に関するものといえば、間接的かもしれませんが2011年に行った全契約社員の正社員化が挙げられます。それまで契約社員の中からは「正社員じゃないので先行きが不透明。なかなか結婚に踏み切れない」という声が出ていました。また従業員の立場の違いが仕事へのモチベーションを奪い、サービスや安全性の低下につながるおそれもありました。そこで職種・職責に応じた新しい給与体系を導入して労働条件の一本化を実現。これにより社員からは「将来展望が開けるようになった」という声が聞かれるようになりました。現在は、正社員のまま短時間勤務ができる体制を整備しています。子育てや介護など社員それぞれのライフイベントに対応できる勤務体制を整えたことで、社員の定着の面でも効果が出ている実感があります。生計を維持しながら長く働いてもらうことで生活の土台が安定し、それが結婚に結びつけばいいと思いますね。

## 広島県は、「日本創生のための将来世代応援知事同盟」に参加しています！

【岩手県、宮城県、福島県、茨城県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、高知県、宮崎県】(2019年3月現在)

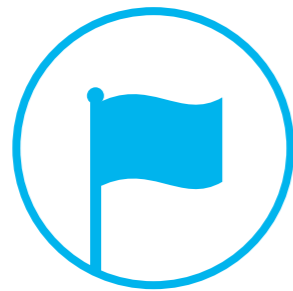


<http://www.nihonsousei.jp/>

- 同盟サミットの開催(加盟県知事が結集し、同盟の取組・成果を深化)
- 毎月19日「出会い・育児の日」、11月19日を「いい育児の日」と設定し機運醸成
- 先進的な取組を行っている企業を「将来世代応援企業」として表彰

- 広島県の表彰企業
- 2014年:(株)サタケ(P13参照)
- 2015年:生活協同組合ひろしま
- 2016年:(株)広島銀行
- 2017年:(株)フレスタ
- 2018年:広島電鉄(株)





# 地域の応援団

地域において結婚を希望する若者のために結婚支援活動を行う「地域のおせっかい役」となる組織をご紹介します。

※揭示順はひろしま出会いサポーターズの任命順



## 広島安佐商工会青年部 婚活実行委員会

可部支所、安佐支所、佐東支所の3支所から構成されている広島安佐商工会。青年部は婚活実行委員会を組織し、2015年から体験型・恋活イベント「縁日」を毎年開催しています。安佐町飯室にあるお寺の境内に昔懐かしい縁日を再現。屋台を体験しながら素敵な出会いを見つけてもらおうという企画です。2年前には「縁日2015」をきっかけに出会ったカップルが成婚。青年部からウエディングケーキが贈られました。



### 具体的な取組み 縁日2018

4年目を迎えた「縁日」は青年部員が行っていた屋台出店を体験型イベントとしてパッケージした。参加者は屋台料理を作る側とお客側、2つのグループに分かれ、両方を体験しながら親睦を深めていきます。最後は男性から女性へ告白タイム。非日常の代表であるお祭り空間での出会いを丁寧にサポートします。



## 佐伯商工会青年部

佐伯商工会は1961年に創設され、2006年に吉和商工会と合併。廿日市市山間部の自然豊かなエリアを活動拠点にしています。そんな佐伯商工会青年部では毎年、旧佐伯町や吉和村など廿日市の中山間地域を主な会場とした婚活イベントを企画しています。これまで男女がペアで釣り堀体験をしたり、バーベキュー、グランドゴルフを満喫するイベント「吉和で素敵な縁結びin魅惑の里」などを開催しました。



### 具体的な取組み スポーツ婚活 in廿日市パークゴルフ場

北海道発祥のコミュニティスポーツ、パークゴルフを楽しみながら親睦を深めようという企画。芝に覆われた緑いっぱいのコースと一緒にプレイすることにより会話も弾み、初めて会った人同士でも心の距離を縮めていました。もちろん個別の自己紹介もあり。フリータイムも豊富に用意されました。



## 沼隈内海商工会青年部

福山市沼隈地区、沼隈半島の先にある内海地区の商工会が合併して誕生した沼隈内海商工会。こちらの青年部では新たな出会いの支援と地域の活性化を目指して、2013年より「マリッジハンティングin内海」と題した婚活事業を行っています。沼隈内海地区の豊富な地域資源を活用しながら素敵な出会いを体験してもらう内容で、これまで14組のカップルが生まれ2組がゴールインしました。



### 具体的な取組み マリッジハンティング in内海

2015年以来3年ぶりとなる開催。今回の舞台も内海町田島にあるロケーション抜群のクレセントビーチ。チームに分かれて行う砂浜アトラクションや島ならではの海鮮バーベキューを通して、楽しい時間を演出しました。2018年は男女ともに30人強の参加があり、過去最高の12組のカップルが成立。内海町の魅力も堪能できたと好評でした。



## 広島県中小企業団体青年中央会 婚活イベント事業実行委員会

広島県中小企業団体青年中央会は1971年に設立された、県内の中小企業の青年部から成る団体。青年部では会員たちの新たな出会いを支援するため、2015年より婚活イベントの企画・運営をスタートさせました。これまでに30組ものカップルが成立し、結婚も実現するなど着実に成果をもたらしています。今後は「恋の輪」をさらに大きく広げていくつもりです。



### 具体的な取組み 青空コン～ブドウと愛を交わせろ！

2018年は三原市旧和木小学校と観光農園「果実の森」を舞台に開催。まず回転寿司形式で自己紹介をした後、学校の校庭を使った参加者対抗のプチ運動会で盛り上がり、バーベキューでは参加者同士が自由に交流を持ちました。食後はブドウ狩りを楽しみながらフリータイム。盛りだくさんの内容でお届けしました。



## 黒瀬商工会青年部

東広島市内にある黒瀬商工会青年部ではこれまで地域活性化を目指したイベントや部員の資質向上を目指した研修などを行ってきました。その一環として春と秋の年2回、婚活パーティー「黒こん」を開催。黒瀬町の素晴らしさをもっと知ってほしい、若者の出会いの場を創設したいという気持ちから取り組んでいます。パーティーで誕生したカップルの中から「結婚しました!」という報告も届いています。



### 具体的な取組み 黒こん

黒瀬での婚活イベントは「黒こんの春」「黒こんの秋」という名称で年2回開催。春は黒瀬町の名店の料理をビュッフェ形式で味わいながら交流を深めるというもの。秋は町内にある保田窯で陶芸&ピザ作りを体験しながら運命の出会いを引き寄せます。マッチングカップルには商工会からプレゼントも贈られます。



### 広報協力企業

こいのわ推進のために、県内各地の企業が  
広報活動に協力くださっていますので、ご紹介します。

#### バスの車内でも

ポスター1,000枚を広島市内を走るバスに掲出していただきました。



広島県バス協会(広島市)

#### 金融機関でも

店舗にて、のぼりやチラシなどを設置いただいております。



広島銀行県庁支店(広島市)

#### 飲食店でも

「こいのわカフェ」に協力いただいている、様々な飲食店さまがポスターを掲出してくださっています。



紙屋町バーラー(広島市)

駅よこ番(呉市)

#### オリジナル「こいのわスイーツ」でPR!

「みんなでおせっかい!『こいのわ』プロジェクト」にインスパイアされた映画「こいのわ婚活クルージング」は、レモン産地の瀬戸内が舞台。そこで、サービス協力店とこいのわがコラボしてレモンを使用した「こいのわスイーツ」を販売しました。映画の公開記念イベントでは、出演者の藤田朋子さんもブースに立たれ、あっというまに完売!



パティスリー アマンド(広島市)

10月のさくら(尾道市)

#### ランチタイムも応援! 「こいのわランチ」

スイーツだけではなくランチもこいのわとコラボ。レモンやハートがテーマのランチを楽しみながら、運試しの恋みくじやスクラッチカードにチャレンジ! 広島県内で33店舗が参加しました。



リバーサイドキッチンあきつ(東広島市)

#### サポート企業100社登録 記念企画「クッキング教室」

仕事だけでなく自分を磨くことは大切なこと。サービス協力店「かるがもキッチンスタジオ(広島市)」の御協力のもと月1回×3回受講のクッキング教室を開催、サポート企業登録の独身社員へ優先案内しました。



男の料理で魅せる!

目指せ!和食料理の  
できる人。



みんなでおせっかい  
していくことが重要。  
それが『こいのわ』  
プロジェクト

広島県知事  
湯崎英彦

昔と比べて、地域や職場での世話役、いわゆる「おせっかい」役が少なくなるなどにより、未婚化、晩婚化が進行しており、将来の広島県を支える人口が減少していく推計も存在するなど、社会全体での対策が急務となっております。

一方で、結婚を希望しながら、「適当な相手にめぐり会えない」などの理由により、交際・結婚に至らない若者が多く存在します。

このため、2015年6月から、若者の希望を後押しする取組みとして、県の出会い・結婚支援「みんなでおせっかい『こいのわ』プロジェクト」をスタートし、結婚したい若者の出会いの場づくりや、地域でおせっかい活動を行うボランティア団体の任命など、県内のいたるところで「おせっかい」の機運を醸成する取組みを展開してきました。

2018年からは、企業や団体の皆様とのパートナーシップを進め、若者の結婚を県と共に応援する一つのカタチとして、県との共催による異業種交流会を開催してまいりました。

この取組みの背景には、多様なライフスタイルが生まれ、従業員それぞれの声にトップ自らが耳を傾ける中で、「出会いがない」という従業員からの生の声を県へ届けてくださる事例や、地域経済の将来を憂うトップの判断として県とのタイアップを望まれる事例など、社会構造の急激な変化に真摯に立ち向かう企業トップとしての想いがあるのだと確信しております。

このようなイノベーションが、従業員のワーク・ライフ・バランスの推進や、企業・地域への愛着の増進、さらには、企業の生産性や広島県全体の活力の向上にも寄与する可能性があるものと期待しています。

こうした機運や活動が、今後、より一層広がり「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県」の実現に向けて、県内の企業や様々な地域に広がっていくよう、取組みを推進してまいります。

## 企業の皆さまへ

従業員の皆さんが結婚、妊娠・出産、子育ての希望を叶え、家庭でも仕事でもいきいきと活躍できるよう、一緒に取り組みをお願いします。

## ライフデザイン

仕事や恋愛、結婚、妊娠・出産、子育てなど、人生にはさまざまなライフイベントがあります。従業員一人ひとりが思い描く理想の生活スタイルや働き方を実現できるように働きかけましょう。ライフイベントのなかには、叶えることに適した時期があるイベントもあります。特に、子供を希望する場合は、加齢によって妊娠する力は低下し、医療によって若返らせることはできません。

### 加齢に伴って妊娠率が低下することを知っていますか(20~24歳の男女)



(2017年度広島県調査)

### [ライフデザインマップ](イメージ)



○20歳代前半の男性の8割、女性の5割が、年齢によって男女それぞれの妊娠する力が低下することを知らない。

○10年、20年後に理想のライフスタイルを迎えるための支援ツールとして、ライフデザインマップを作成しました。

○従業員がどんなライフデザインを考えているかなどのコミュニケーションツールとしても活用できます。

## 出会い・結婚支援

### まずはサポート企業に御登録ください!

従業員の結婚支援に取り組んでいただく企業・団体を募集しています。

#### [取組事例]

- 企業内でポスターやリーフレット掲示
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 出会いイベント参加費に対する助成金
- 従業員の結婚に対する祝い金・助成金 など

### 企業・団体と連携した出会いイベントを開催しています!!



2018.9.22 異業種交流会(広島市) (連合広島(広島地域協議会)と共催)  
 2018.9.29 葡萄狩りツアー(三次市) (広島経済同友会と共催)  
 2019.3.9 異業種交流会(福山市) (連合広島(福山地域協議会)と共催)

※その他、独自に出会いイベントや異業種交流会の開催に取り組まれている企業・団体も増えてきています。

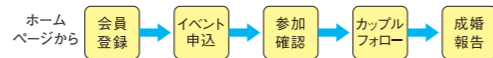
一緒に従業員の結婚を応援しましょう!!

### 従業員の皆さんに御紹介ください!

#### ■ひろしま出会いサポートセンター

地域や民間など多様な主体と連携し、結婚を希望する若者を応援しています。イベントなど出会いに関する情報を集約して、ホームページで紹介しています。

まずは、会員登録から▶ [ひろサポ](#) [検索](#)



### 地域や民間など様々な主体による出会いイベントが開催されています!

#### こいのわカフェ

週に1回のペースで、県内各地の飲食店などを会場に小規模(30~40人)な出会いイベントを開催。イベントでは、研修を受講した「こいのわボランティア」が、皆さんの交流をお手伝い! 婚活初心者の方も安心してご参加ください。

#### ひろしま出会いサポーターズ

地域のおせっかい役として登録した団体が、登山やビーチでのBBQなど趣向を凝らしたイベントを企画・運営。



## 不妊治療支援

### 従業員の不妊治療をサポートする取り組みについて御検討ください。

#### [仕事と不妊治療の両立支援に取り組む企業の取組事例]

企業独自制度	制度概要
不妊治療休職制度	体外受精、顕微授精を行うための休職制度
不妊治療貸付制度	体外受精、顕微授精等不妊治療に要する費用の貸付制度
こうのとりのサポート制度	不妊治療及び養子縁組に要した費用に対する補助制度
時間単位の年次有給休暇制度	年次有給休暇の半日単位、時間単位での付与
ワーキングサポートダイヤル	従業員のライフイベントと仕事の両立についての相談窓口の設置



詳しくは、厚生労働省リーフレット「仕事と不妊治療の両立支援のために」を御覧ください。

### 不妊検査・治療に関する情報の周知に御協力ください。

#### ●広島県不妊専門相談センター

不妊や不育に悩む夫婦や家族に対し、医学的・専門的な相談や心の悩みなどについて、医師・助産師などの専門家が相談にお応えします。

詳しくは▶ [広島県不妊専門相談センター](#) [検索](#)

#### ●不妊検査・治療に対する助成制度

夫婦そろって不妊検査を受けると、検査・治療に対する助成を受けられます。

詳しくは▶ [広島県 不妊検査](#) [検索](#)



## 子育て支援

### 「子育て応援イクちゃんサービス」に御参加ください。



親子でお出かけしやすい環境づくりのため、妊婦から18歳未満の子育て家庭を対象に、子育てにやさしいサービスを提供いただく企業や店舗・施設等を募集します!

#### [子育てにやさしいサービスの例]

- 授乳・おむつ換えスペース ●キッズスペース
- 子供用トイレ ●親子連れの工場見学会
- 割引ポイントアップ ●お菓子・飲み物サービスなど

詳しくは▶ [イクちゃんサービス](#) [検索](#)

### 企業主導型保育事業を始めませんか

企業が従業員の働き方に応じた柔軟な保育サービスを提供するために設置する保育施設等の整備費、運営費を助成。

#### [ポイント]

- 働き方に応じた多様な柔軟な保育サービスの提供が可能
- 複数企業による共同設置、共同利用が可能
- 地域の子供の受入(地域枠の設定)が可能
- 整備費・運営費について、認可施設並みの助成が受けられます

詳しくは「企業主導型保育事業ポータルサイト(公財)児童育成協会」をご覧ください。

### 子育て支援に関する情報の周知に御協力ください。

#### ■ひろしま版ネウボラ

広島県では、妊娠期から子育て期まで切れ目なくワンストップでサポートする「ひろしま版ネウボラ」の構築に取り組んでいます。

詳しくは▶ [ひろしま版ネウボラ](#) [検索](#)



#### ■イクちゃんネット

子育てに役立つ情報が満載です!!

- 子育てイベント情報 ●お悩み相談
- ケガや病気などの対応 ●パパの子育て
- ママのお仕事 など

詳しくは▶ [イクちゃんネット](#) [検索](#)